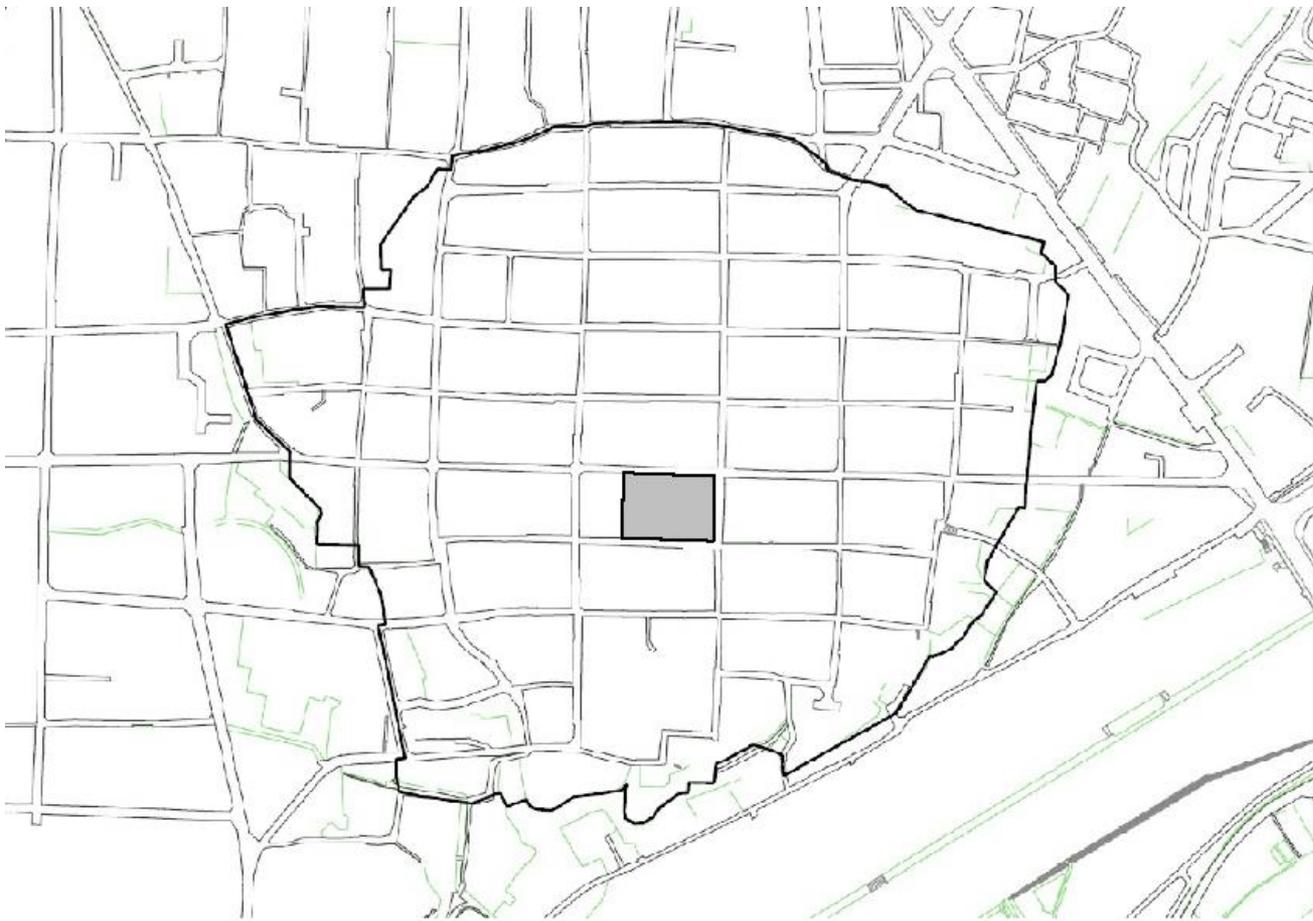


富田林寺内町拡大選定記念事業

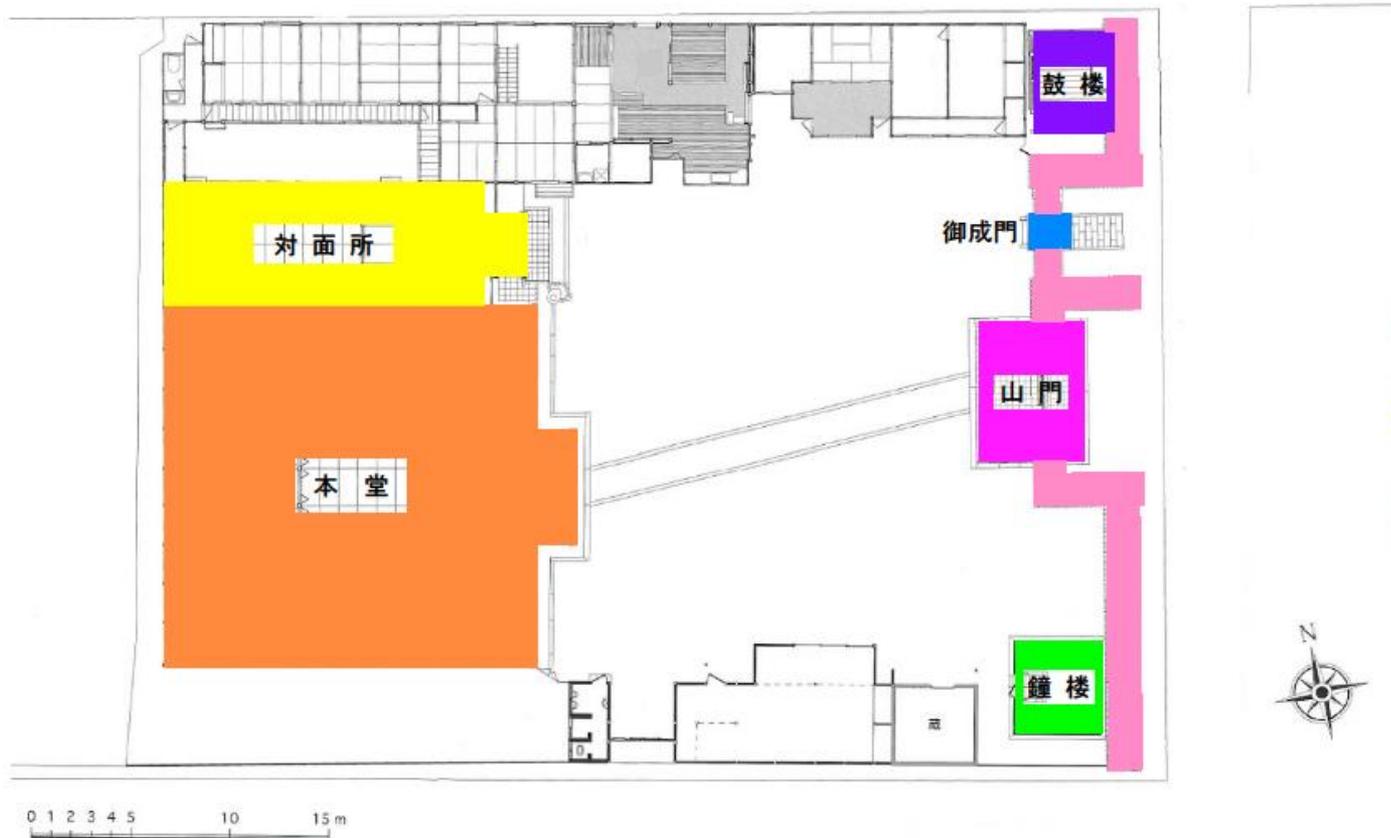
興正寺別院の 現状とこれから



公益財団法人
文化財建造物保存技術協会
丸石暢彦



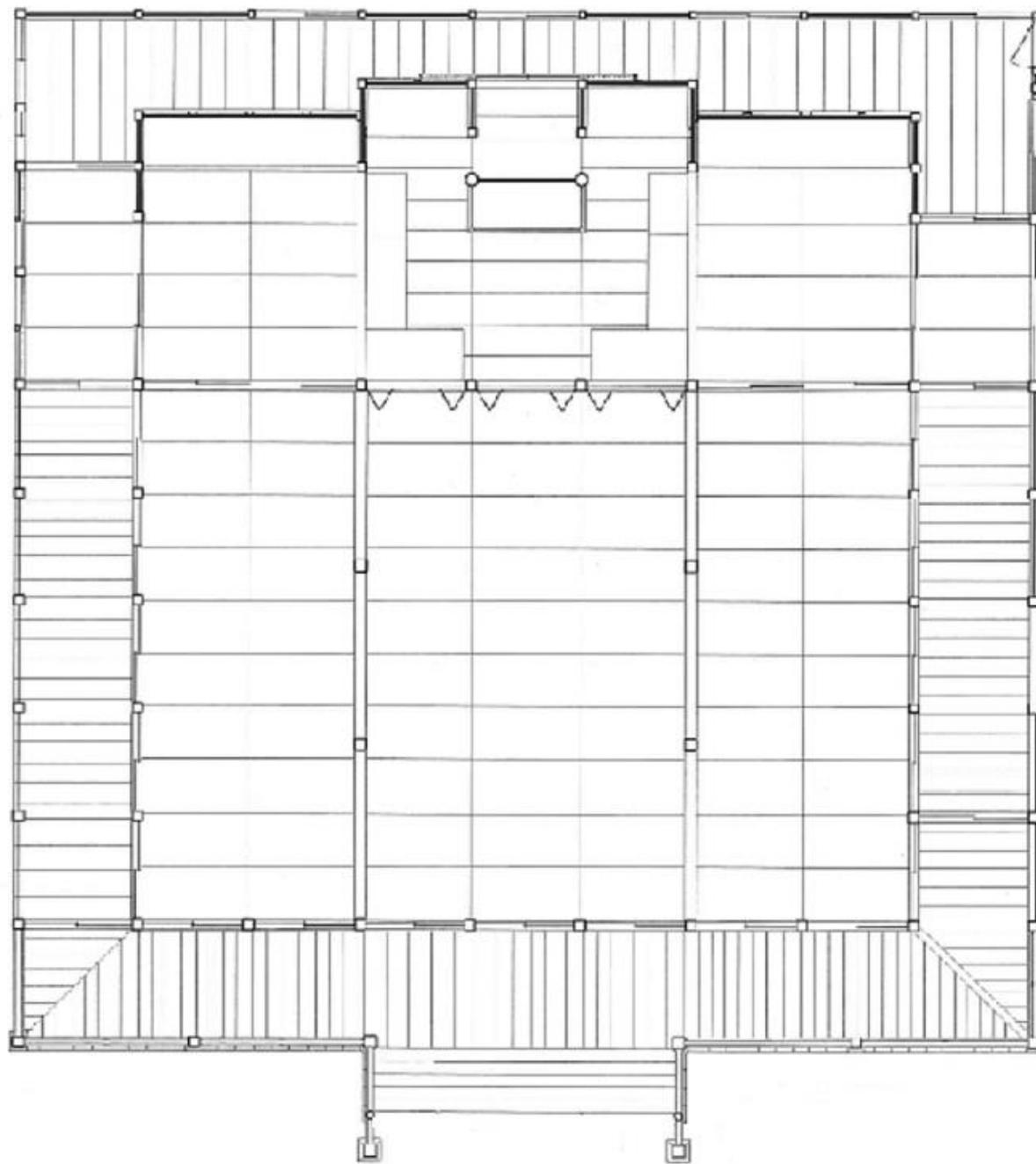
- 永禄3年(1560)
興正寺証秀、石川左岸の荒地
を銭百貫文で取得
- 同4年(1561)
興正寺(富田林道場)の建立
- 寛永13年(1638)
現在の本堂を再建
- 文化7年(1810)
境内地の整備
- 平成9年(1997)
富田林寺内町が重要伝統的
建造物群保存地区に選定
- 同26年(2014)
興正寺別院本堂ほか5棟が
重要文化財指定を受ける
- 同30年(2018)
富田林伝建地区の選定範囲
拡大



重要文化財 興正寺別院 指定年月日：平成26年9月18日

- ・本堂 寛永13年(1638)
- ・対面所 安政2年(1856)
- ・鐘楼 文化7年(1810)
- ・鼓楼 江戸後期
- ・山門 江戸前期
- ・御成門 江戸中期
- ・附指定 築地塀

本堂や対面所を中心に江戸時代末期に整えられた境内が良好に維持されており、富田林寺内町の歴史的景観に欠くことのできない存在として貴重である。特に本堂は寛永15年の建立で、近畿地方における最古級の真宗本堂である点、価値がある。



本堂平面

寛永13年(1638)建築



本堂外観

寛永13年(1638)建築



本堂縁廻り

寛永13年(1638)建築



本堂向拝廻り

寛永13年(1638)建築



本堂内部

寛永13年(1638)建築

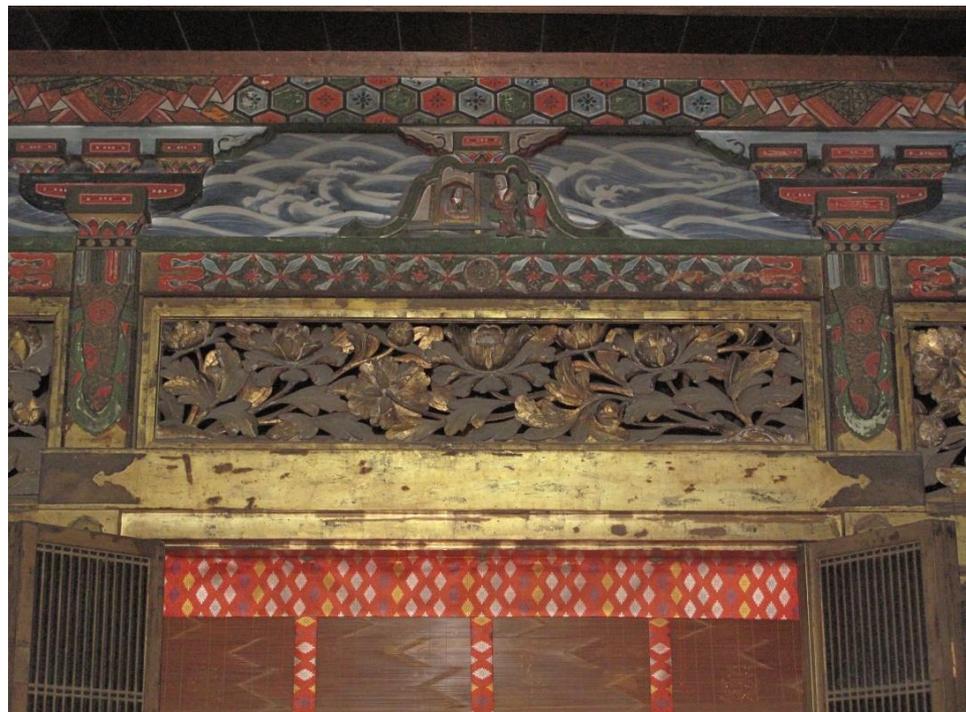


本堂内部

寛永13年(1638)建築



本堂内部 内外陣境

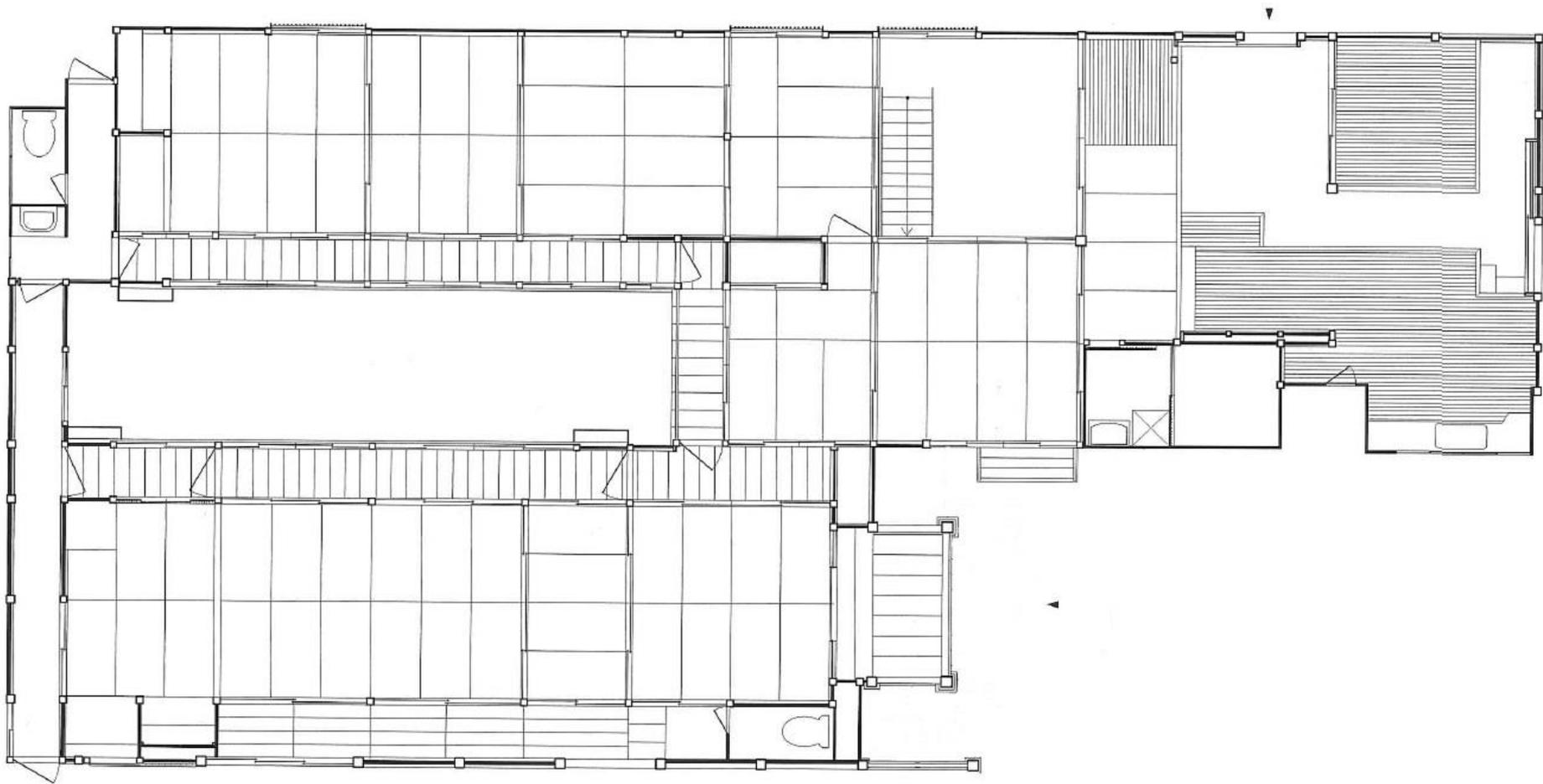


寛永13年(1638)建築



本堂内陣内部

寛永13年(1638)建築



対面所平面

安政2年(1856)建築



対面所正面

安政2年(1856)建築



対面所玄関正面

安政2年(1856)建築



対面所上段の間

安政2年(1856)建築



対面所内部

安政2年(1856)建築



対面所内部

安政2年(1856)建築



鐘楼外觀

文化7年(1810)建築



鼓樓外觀

江戸後期建築



鼓樓外觀

江戸後期建築



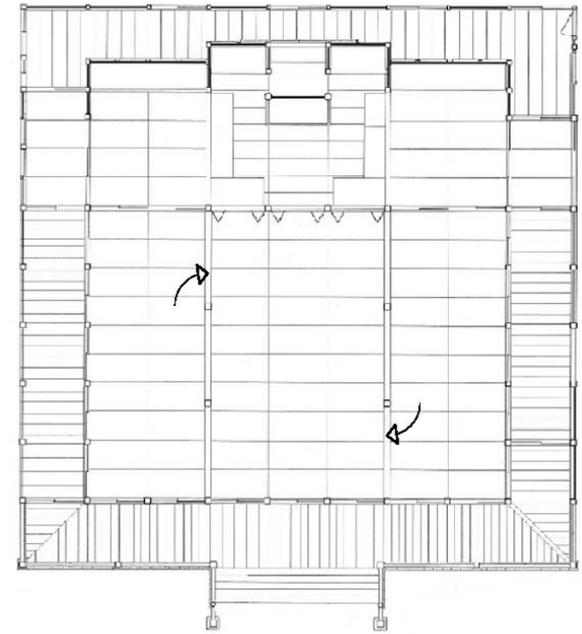
表門

江戸前期建築



御成門

江戸中期建築



本堂軸部 柱の傾斜



本堂屋根 屋根軒先が垂下



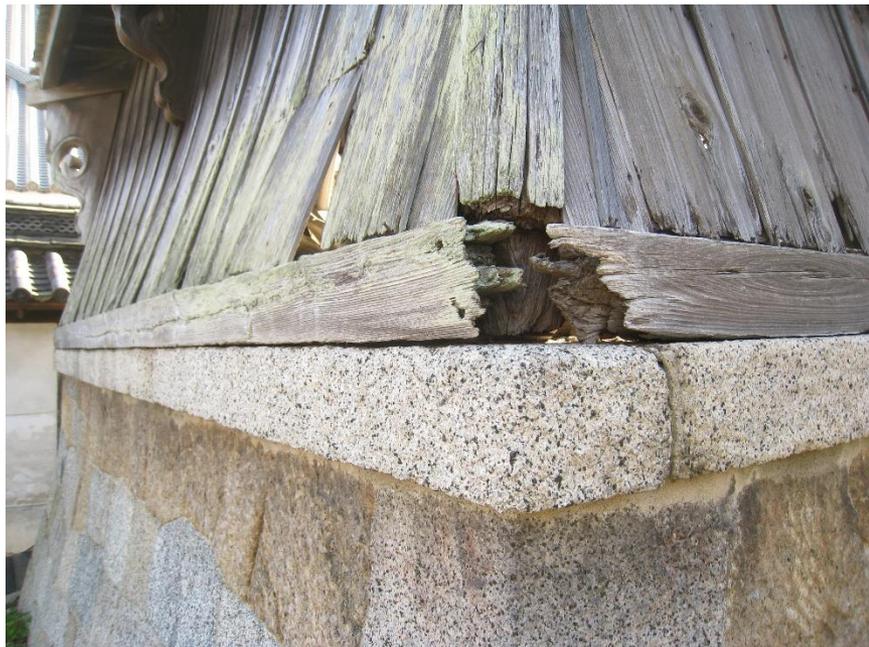
屋根小屋内部 屋根下地の垂木が鼻先で曲がる



本堂屋根の破損



対面所壁面の亀裂



鐘楼の破損



表門の破損



御成門の破損

興正寺の各建物の状況

境内の多くの建物で破損を確認

特に本堂では

- ①屋根瓦の欠失、ズレにより雨漏りが発生
- ②小屋組部材の破損により屋根軒先が垂下 → 建物の破損程度は大
- ③柱等の軸部材の傾斜



早期の修理が必要



文化財における保存修理工事の意義

文化財の価値を正しく理解し工事実施
工事に際し様々な調査の実施

- ① 破損調査 → 破損の原因を解明し問題点の修正
- ② 実測調査 → 建物を正しく理解し図面化して記録
- ③ 痕跡調査 → 建物の改造の変遷を解明
- ④ 仕様調査 → 建築時や改造時の工法等の解明
- ⑤ 史的調査 → 部材に残された墨書や文書史料より歴史の解明

文化財としての修理方針を決める根拠



保存修理工事を通して文化財としての価値の再定義の機会



重要文化財 称念寺本堂(奈良県橿原市今井町)
平成22年4月 保存修理事業着手(解体工事)
平成33年12月 竣工予定







